

平成 21 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2008

課題番号：18600007

研究課題名（和文）京都とヨーロッパ主要首都のイメージの生成・受容・流布・変容に関する比較文化研究

研究課題名（英文）A Comparative Study of The Creation, Reception, Propagation and Transformation of The Images of Kyoto and European Capital Cities

研究代表者

野口 祐子 (NOGUCHI YUKO)

京都府立大学・文学部・教授

研究者番号：80128769

研究成果の概要：10名のチームからなる本研究では、文学・歴史地理学・社会学・都市保存学の観点から、京都とヨーロッパ主要首都のイメージに関して、1) 国民のアイデンティティを強化するための歴史的空間としてのみやこ、2) 古都としての保存と近代的都市開発の理念の葛藤、3) 美意識の変化とみやこの姿との影響関係を中心テーマとして共同研究をおこなった。2006年11月には公開シンポジウムを開催し、2008年度には研究成果報告書を作成して、近隣の研究機関と公共図書館に配付した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,900,000	0	1,900,000
2007年度	900,000	270,000	1,170,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
総計	3,600,000	510,000	4,110,000

研究分野：イギリス文学・比較言語文化

科研費の分科・細目：都市

キーワード：「みやこ」のイメージ

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 2005年度に京都府立大学地域貢献型研究「みやこの思想・みやこの表象」の共同研究をおこなった。ヨーロッパで進んでいる都市イメージの研究を土台にして、京都の「みやこ」イメージの変遷を、国民のアイデンティティと美意識の変遷から解き明かすことが目的であった。

(2) 1年間の研究期間では展開しきれない規模の研究を発展させて、今日の行政とメディアによって強化されている京都の古都イメージを検証することが動機となった。

## 2. 研究の目的

(1) 京都という都市を国際的視野から見直し、従来の京都学を「みやこ学」として国際的に開いていく。

(2) ヨーロッパで進んでいる都市イメージ研究の方法を採用し、ヨーロッパ主要首都と京都イメージの生成・受容・流布・変容のあり方を比較する。

(3) ヨーロッパで国民国家の形成を見た19世紀をおもに扱うことによって、「みやこ」のイメージと国民のアイデンティティ形成との関係を分析する。

(4) 19世紀以降のヨーロッパ主要首都と明治期京都が、近代化促進と古都のイメージ保存の必要性の間で、いかに揺れ動き、独自のイメージを模索していったか。この問題を保存と開発の理念の葛藤という観点から分析する。

(5) 各時代の美意識は、都市においては開発への抑止力ともなり、また新たな都市イメージを創造する力ともなった。それゆえ19世紀のヨーロッパにおける美意識が、いかに都市のイメージに反映されたかを分析することは、近代化の中でイメージを模索した京都について考えるために重要となる。

### 3. 研究の方法

本研究は、文学・旅行記・ガイドブック・地図・絵画・建築・記念碑・都市計画案・都市保存案といった資料の調査と解釈、それらの比較検討を中心に研究を進めた。

- (1) 定期的に研究会を開き、研究代表者の野口祐子と、研究分担者の宗田好史で都市比較の指揮をとった。
- (2) 研究代表者の野口祐子がロンドンの大英図書館他にて調査と資料収集をおこなった(2006年8月)。研究分担者の加藤丈雄がニュルンベルク市立図書館他にて調査と資料収集をおこなった(2006年8月)。
- (3) 2006年11月の公開シンポジウムに向けて、メンバー間での知見の共有を促進した。
- (4) 公開シンポジウムでの成果を元に、研究会で知見を共有しながら2年目以降の研究を展開した。
- (5) 冊子体の研究成果報告書の公表に向けて、各メンバーが論文を作成した。

### 4. 研究成果

3年間の共同研究では、19世紀から20世紀にかけてのロンドン・ローマ・ダブリン・ウィーン・ニュルンベルクにおける、帝国主義とナショナリズムの思想、独立運動やファシズムが都市のイメージ構築に与えた影響、国民による受容、他都市への影響、近代化の中で起こった変容、近代化への意志と保存への意志の間での葛藤という問題を取り上げ、京都が近代的都市の相貌を整えるために、また国際的観光都市として成功するために行った現在までに至るイメージ構築と比較し、ヨーロッパからの影響について考察した。その研究成果を以下の形で公表した。

今後は、本研究で複数メンバーが取り上げた京都を題材にした近代小説をキーテキストとして、ヨーロッパの首都イメージの研究で得られた知見を活用しながら、京都のイメ

ージの変遷、古都性と近代都市性の相克について研究を深め、京都が目指すべき道について提言を行う。以後の研究の継続で京都学を「みやこ学」としてさらに国際的に開いていく予定である。

- (1) 研究成果の中間報告として、公開シンポジウム「みやこ」の姿を考える---京都・ローマ・ロンドン・ダブリン・ニュルンベルク」を開催した(2006年11月18日、ハートピア京都)。

講演：

- 1 全ての道はローマに通じる---みやこ演出のお手本 宗田好史
- 2 ローマになりたかったロンドン---大英帝国の威容を示すためのみやこ 野口祐子
- 3 ロンドンになりたくなかったダブリン---植民地のみやこからケルト民族のみやこへ 浅井学
- 4 ローマになりたくなかったニュルンベルク---ゲルマン精神を演出するみやこ 加藤丈雄

コメント：

- 演出されたみやこ町---洛中洛外図の中の京都 水本邦彦
- パネル・ディスカッション：  
京都におけるみやこの演出---ヨーロッパとの比較の視点から 参加者全員

(2) 3年間の研究成果を成果報告書にまとめ、近隣の研究機関と公共図書館に配付した(2009年3月)。

目次：

- 【はじめに】 野口祐子 3-10
- 【研究報告】
- ・19世紀前半のロンドンにおける新たな首都イメージの構築、および明治期京都への視点 野口祐子
  - ・みやこのイメージにおける保存と開発の葛藤 野口祐子
  - ・みやこにおけるイメージ構築の変遷と都市の公共性 野口祐子
  - ・19世紀のイギリスにおける古代ローマとローマ帝国 長谷川雅世
  - ・京都あるいはウィーンにみる都市の変容とドイツ詩人たちの抵抗
  - ・都市との関わり・都市の相貌---ヘルマン・ヘッセ『ニュルンベルクの旅』について 加藤丈雄
  - ・『ダブリン市民』のダブリンと『古都』の京都 浅井学

・京都イメージの固定化と伝統の消費 野田浩資

・ 'Takasebune' in English Translation Larry Walker

・京都における古典的な名所の想像力 『源氏物語』と王調和歌 赤瀬信吾

・京都本屋仲間の蹉跌---重版・類版問題の行方 藤原英城

#### 【シンポジウム報告】

「みやこ」の姿を考える---京都・ローマ・ロンドン・ダブリン・ニュルンベルク」パネル・ディスカッション報告

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計9件)

- (1) 野口祐子 「誰のための広場か?---みやこのイメージを巡るトラファルガー広場の戦い」『京都府立大学学術報告 人文・社会』無、第60号、2008、33-50.
- (2) 野田浩資・堀内祐希 「京都へのまなざしの構造・伝統回帰と京都ブームの記号的消費」『福祉社会研究』有、第8号、2008、51-63.
- (3) 野口祐子 「ロンドンのイメージ構築におけるセント・ポール大聖堂の重要性、および京都への視点」『京都府立大学学術報告 人文・社会』無、第59号、2007、1-20.
- (4) ラリー・ウォーカー 「京都古典文学の英改作、英訳および新英訳」『日本文学ジャーナル』有、第1巻1号、2007、110-125.
- (5) 青地伯水 「まどろむ不変の定数---保守革命を介してのアイヒとナチスの親和性」『Germanistik Kyoto』有、第7号、2006、1-18.
- (6) 野口祐子 「世界一の帝国首都は二流のみやこ---ナポレオン戦争後のロンドンにおける矜持と不安の言説、および明治期京都への視点」『京都府立大学学術報告 人文・社会』無、第58号、2006、13-31.
- (7) 宗田好史 「世界遺産条約のめざすもの---ICOMOS (国際記念物遺産会議) の議論から」『環境社会学研究』有、第12号、2006、5-21.
- (8) 野田浩資 「伝統の消費：京都市における町家保全と都市再生」『環境社会学研究』有、第12号、2006、57-71.
- (9) 藤原英城 「浮世草子作者の誕生---都の錦をめぐる人々」『京都語文』有、第13号、2006、4-22.

[学会発表] (計0件)

[図書] (計1件)

(1) 野口祐子編著『メアリー・ポピンズのイギリス』世界思想社、2008、1-178.

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]

野口祐子編『平成18年度~平成20年度科学研究費補助金研究成果報告書 京都とヨーロッパ主要首都のイメージの生成・受容・流布・変容に関する比較文化研究』1-186.

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者

野口 祐子(YUKO NOGUCHI)

京都府立大学・文学部・教授

研究者番号：80128769

(2) 研究分担者

宗田 好史(MUNETAYOSHIFUMI)

京都府立大学・生命環境学研究所・准教授

研究者番号：70254323

野田 浩資(NODAHIROSHI)

京都府立大学・公共政策学部・准教授

研究者番号：60250255

浅井 学(ASAIMANABU)

京都府立大学・文学部・准教授

研究者番号：00257817

ラリー・ウォーカー(LARRY WALKER)

京都府立大学・文学部・准教授

研究者番号：70381928

青地 伯水(AOJIHAKUSUI)

京都府立大学・文学部・准教授

研究者番号：10264748

赤瀬 信吾(AKASESHINGO)

京都府立大学・文学部・教授

研究者番号：70137074

藤原 英城(FUJIWARAHIDEKI)

京都府立大学・文学部・准教授  
研究者番号：20264749

(3)連携研究者  
加藤丈雄(KATO TAKEO)  
大谷大学・文学部・教授  
研究者番号：00194829  
長谷川雅世(HASEGAWA MASAYO)  
京都府立大学・共同研究員  
研究者番号：30423867